

漁況情報号外（平成 27 年度ケガニ漁況情報）

平成 27 年 1 2 月 2 日
岩手県水産技術センター

本県沿岸漁船漁業の主要対象魚種であるケガニについて、漁期前調査結果を基に平成 27 年度の漁況を以下の通り予測したので、参考にしてください。

- | | |
|--------------|-------------------------------------|
| 1) 期 間 : | 平成 27 年 12 月から平成 28 年 3 月 |
| 2) 漁業種類 : | 固定式刺網・カゴ（いずれも知事許可漁業） |
| 3) 資源水準と動向 : | 資源水準は低水準 資源動向は減少傾向 |
| 4) 漁 況 : | 前年度並または下回る 主漁期は遅れ、1 月以降になると見込まれる |
| 5) 漁獲サイズ : | 7cm 台（体重 200~250g 前後）が主体 |

〈漁況予測に用いた主要データ〉

1 岩手県に生息するケガニの生態

岩手県沖合に分布するケガニは、水深 150~300m に生息しています。本海域のケガニは、6~9 月に交尾を行い、雌が卵を約 2 年半保育後、冬から春にプランクトン状の仔ガニを放出します。その後は脱皮ごとに成長し、繁殖に参加するまで 3~4 年（甲長約 5cm）、漁獲対象となる甲長 7cm に達するまで約 5 年かかります。脱皮時期は 6~8 月をピークとする 4~10 月で、その後回復して漁獲が開始される頃には甲羅が堅くなります。

2 岩手県におけるケガニ水揚げ量の推移

岩手県における平成 8 年度以降の漁法別水揚げ量を図 1 に示します。ケガニは、大部分が固定式刺網とカゴで漁獲されており、水揚げ量は 4 年程度の周期で増減しています。平成 26 年度の水揚げ量は、前年比 74%、平年（平成 20~25 年度平均）比 56%の 50 トンと、平成 8 年度以降最低となりました。漁法別にみると、刺網が前年並、平年比 51%の 14 トン、カゴが前年比 67%、平年比 58%の 36 トンでした。

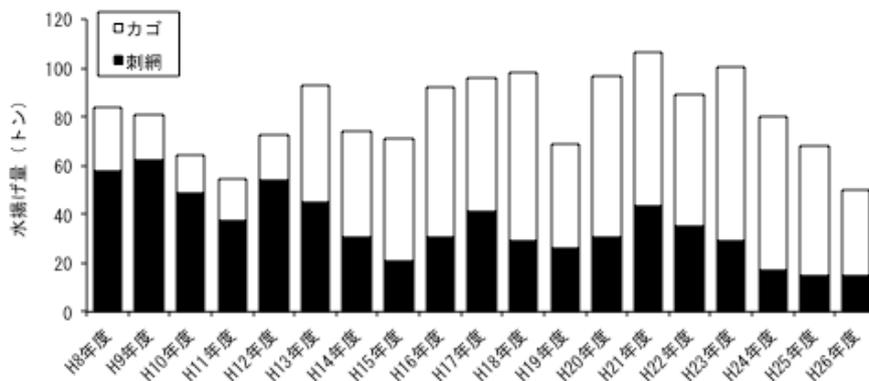


図 1 岩手県におけるケガニの年度別・漁法別水揚げ量の推移

水揚げ動向に基づく刺網とカゴをあわせた延べ水揚げ隻数と漁法別の1隻・1日あたりの平均水揚げ量（CPUE：kg/隻・日）の推移を図2に示します。延べ水揚げ隻数は、東日本大震災の影響によって平成23年度に1,258隻まで減少しましたが、平成24年度以降1,400隻前後で推移しています。

CPUEは、特にカゴで平成19年度から増加傾向を示しており、平成23年度には両漁法ともに平成9年度以降最大となりました（刺網：68kg/隻・日、カゴ：85kg/隻・日）。その後、全体的に減少傾向を示しており、平成26年度は刺網では前年比87%、平年比61%の30kg/隻・日、カゴでは前年比73%、平年比62%の41kg/隻・日で、平成19年度以降最低となりました。

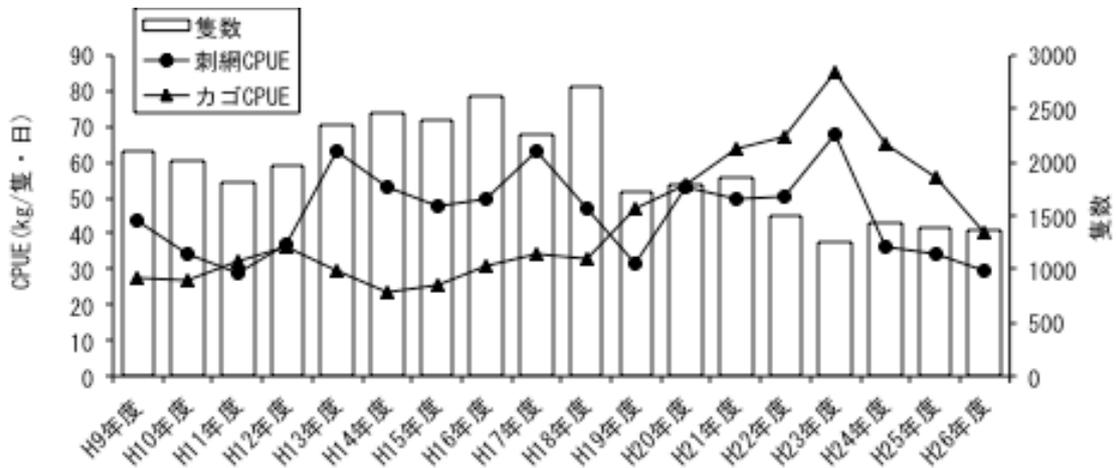


図2 岩手県における年度別の延べ水揚げ隻数と刺網とカゴ CPUE (kg/隻・日)

3 漁期前調査の結果

岩手県水産技術センターでは、例年脱皮後から漁期直前の9～11月に、漁業指導調査船「北上丸」によるカゴでの漁期前調査を釜石沖合の水深150～200mで実施しています。本年度は、10月と11月にそれぞれ2水深帯（水深185mと195m）で調査を実施しました。本年度の調査で観測された180m深の水温は、10月26日が前年同期よりも0.57℃低い11.11℃、11月11日が前年より1.22℃低い13.08℃で、11月調査時の水温を比較すると、最も高かった平成26年に次いで高くなっていました（図3）。

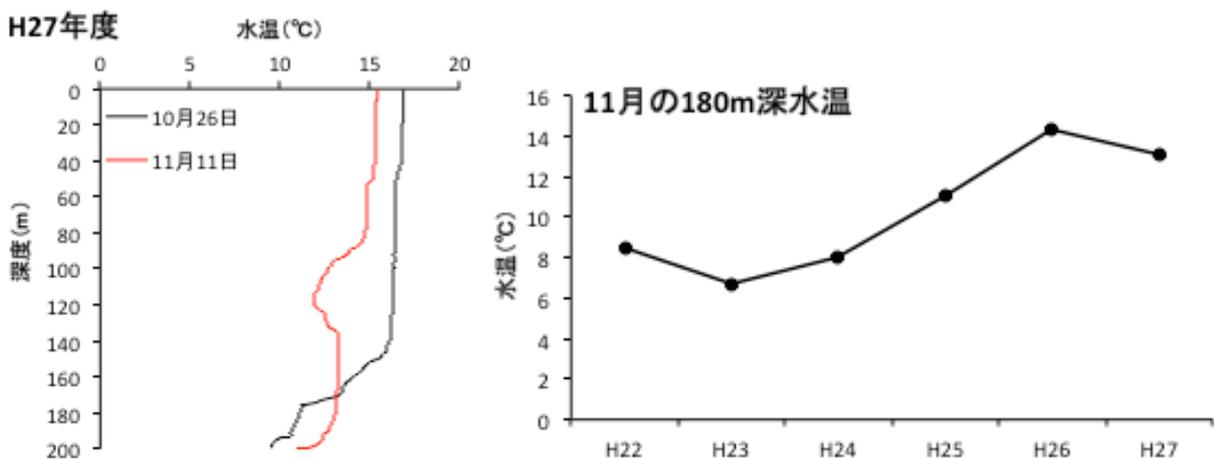


図3 釜石沖200m等線付近における水温分布(左)と11月調査時の180m深水温(右)

本年調査での採集尾数は、90尾（雄：38尾、雌：52尾）で、雌雄ともに前年の222尾（雄148尾、雌74尾）を大きく下回り、極端に少なかった平成24年の76尾（雄42尾、雌26尾）を雌では上回りましたが、雄では下回りました。採集されたケガニの甲長組成を図4に示します。雄は、甲長53～55mmを主体とする階級（2歳）が主体で、甲長70mmを上回る漁獲対象サイズでは73～87mmの広い階級が採集されたものの、全体的に少なくなっていました。雌は甲長51mmと64mmを主体とする階級が主体となっていました。

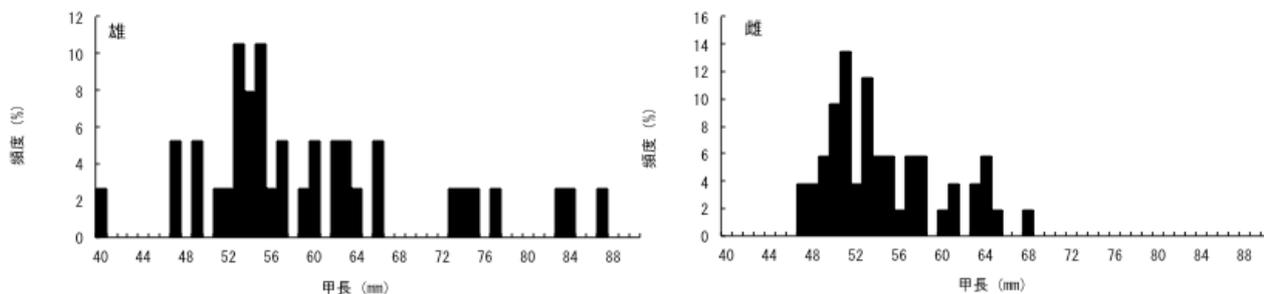


図4 平成27年度の漁期前調査で採集されたケガニの甲長組成

採集されたケガニのうち、漁獲対象となる雄について、4つの甲長階級（50mm台、60mm台、70mm台、80mm台）に分けて1カゴあたりの平均採集尾数（CPUE）を比較しました（図5）。平成27年度は、全ての甲長階級が採集されましたが、甲長80mm台のみ前年を上回った以外は前年を下回り、8～23年度平均と比べると、全ての階級で下回りました（平成27年：甲長50mm台：0.19尾/カゴ、60mm台：0.04尾/カゴ、70mm台：0.04尾/カゴ、80mm台：0.03尾/カゴ；平成26年：甲長50mm台：0.26尾/カゴ、60mm台：0.16尾/カゴ、70mm台：0.16尾/カゴ、80mm台：0.02尾/カゴ）。

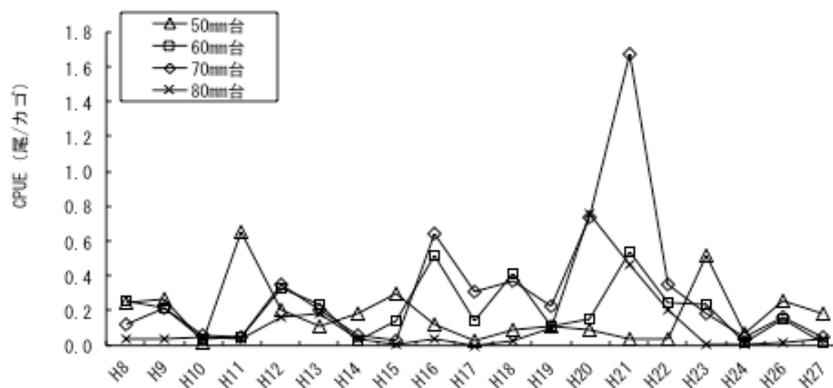


図5 漁期前調査で採集されたケガニ雄の甲長階級別平均 CPUE（1カゴあたりの平均採集尾数）（採集数が1尾のみであった平成25年度は除く）

この調査の他、岩手県水産技術センターでは、11月に漁業指導調査船「岩手丸」を用いて本県沖の水深200～350mで着底トロール調査を行っています。平27年11月10～25日の調査で、全18地点中6地点から合計10尾のケガニ雄が採集されました。そのうち、漁獲対象となる甲長70mmを超えるサイズ（70mm台2尾、80mm台3尾、90mm台2尾）は平成23年以降最少の7尾でした（平成23年：115尾、平成24年：35尾、平成25年：64尾、平成26年：欠測）。

4 資源評価

漁期前調査から求められた漁獲対象の甲長 70mm を上回る雄の CPUE は、カゴによる年度別水揚げ CPUE と正の相関が見られ、おおむね資源水準を示していると考えられました (図 6)。また、同時期の着底トロール調査による採集数も、平成 27 年は近年では最少となりました。そのほか、水揚げデータから求められた直近年度 (平成 26 年度) の CPUE は、過去 10 年間 (平成 16~25 年度) 平均比でカゴが 76%、刺網が 61%と、いずれも平成 19 年度以降最低水準となっています (図 2)。

以上の結果から現在の資源水準を評価した結果、資源量は低水準で、動向は減少傾向と判断されました。

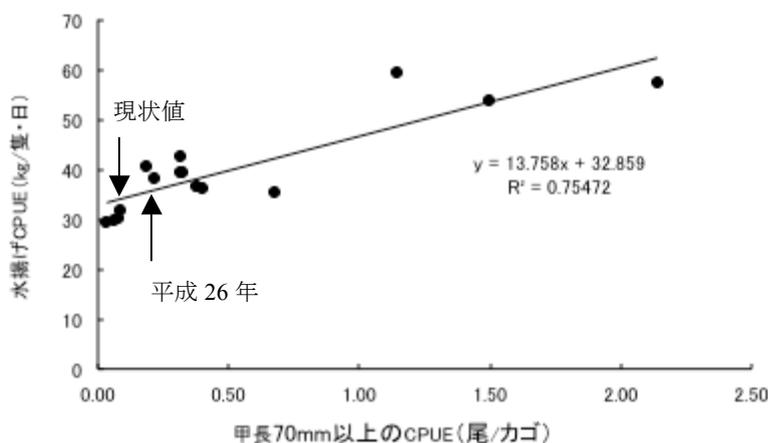


図 6 北上丸を用いた漁期前調査による甲長 70mm 以上の CPUE (尾/カゴ) とカゴの年度別水揚げ CPUE (kg/隻・日) の関係

5 平成 27 年度漁況予測

漁期前調査で観測された 11 月の 180m 深水温 (図 3) と水揚げ量を比較すると、漁期入り直前の水温が高い年は水揚げ量も減少する傾向が見られています (図 7)。

この結果と資源評価結果に基づいて平成 27 年度漁期の水揚げ量を試算すると、不漁年であった平成 26 年度とほぼ同程度の 50 トン前後と推定されました。漁獲物の主体は甲長 70mm 台 (体重 200~250g) とみられますが、全体的に低い水準になると見込まれます。また、11 月の水温動向から判断すると、漁期入りは遅れ、1 月からが見込まれます。

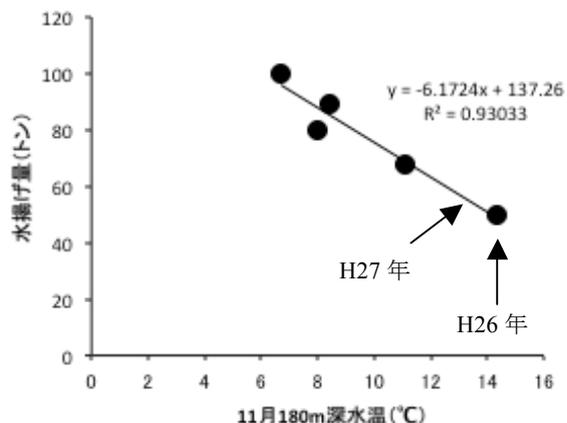


図 7 11 月 180m 深の水温とケガニ水揚げ量の関係

お問い合わせ先: 岩手県水産技術センター漁業資源部 (担当: 後藤)
 (電話: 0193-26-7915 / Fax: 0193-26-7910 / E-mail: CE0012@pref.iwate.jp)